



特 別
45
6005
1



Students' Course

Japanese Dispatches

Vol. 1. 1910.

British Embassy

Tokio

December 13. 1910.

775

6005

1

MSV

第一



以書翰致啟上候陳者汽船「ダコタ」號ノ
 貨物救ヒ揚ニ關スル助力ニ對シ貴國
 政府及「ロイド」會社ノ委員ヨリ御表示
 相成タル鄭重ノ謝意本月二日付第四
 八號貴翰ヲ以テ御傳達相成致敬承候
 右拜答旁本大臣ハ茲ニ重テ貴下ニ向
 テ敬意ヲ表シ候敬具

明治四十年五月九日

外務大臣子爵林 董

英國大使官

note: Should be expected
 not to make pencil or other
 marks in the Japanese text.

大不列顛臨時代理大使

エーチ、シール、ラウザー貴下

第二

拜啟今般清國皇帝並太皇太后兩陛下
崩御ニ付今廿一日ヨリ來十二月十一
日マテ廿一日間宮中喪被仰出候條此
段得貴意候敬具

明治四十一年十一月廿一日

宮内大臣伯爵田中 光顯

大不列顛特命全權大使

カークロード、マックスウエル、マクドナルド閣下

第三

以書翰致啟上候陳者本月十七日附ヲ
以テ今般貴國海軍省ヨリ發布セラレ
タル貴國軍艦祝砲規則一通御送付被
成下致鳴謝候右ハ參考ノ為早速其筋
ニ轉送致置候間右様御承知被成下度
本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ
表シ候敬具

明治二十七年四月十八日 外務大臣陸奥宗光
大不列顛特命全權公使

ヒユ、フレザー閣下

第四

以書翰致啟上候陳者貴我兩國條約改正ニ對シ本日我

皇帝陛下、御批准相濟候ニ付明二十五日午前十一時當省ニ於テ貴我雙方、御批准書交換可致候間貴國

皇帝陛下、御批准書御攜帶同時刻御來省相成度候本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向ヒ敬意ヲ表シ候敬具

明治二十七年八月二十四日

外務大臣陸奧宗光

大不列顛特命全權公使

ゼ、オノラブル、ル、ポール、トレンチ閣下

第五

以書翰致啟上候陳者本邦現行ノ鼠族
驅除法ニ關シ本月廿八日付第九號貴
翰ヲ以テ御照會ノ趣致敬承候御希望
ノ趣旨ハ關係官廳ニ移牒致置候ニ付
追テ回答有之次第何分ノ儀可申進候
右不取敢拜答旁本大臣ハ茲ニ重テ貴
下ニ向テ敬意ヲ表シ候敬具

明治四十年一月三十一日

外務大臣子爵林 董

大不列顛臨時代理大使

エーチ、シー、ラウザー貴下

第六

以書簡致啟上候陳ハ本年一月中靜岡
縣遠州白羽村海岸ニテ難破セシ貴國
帆前船サツタヲ号ノ船体其他取片付
相成候後同所海底へ碇二個存留シ漁
業通船等ニ支障不少候ニ付取除ノ儀
同村人民申立候趣靜岡縣令ヨリ申出
候間及御通牒候就テハ右處分方ノ儀
其筋へ御申達有之候様致度此段得貴
意候敬具

明治十七年四月一日

外務卿井上馨

大不列顛^國特命全權公使
ゼ、オノレトブル、エフ、アル、プランケット閣下

第七

拜啟陳者客月二十八日付貴柬ト共ニ
白人奴隸賣買抑壓ノ目的ヲ以テ千九
百六十年十月巴里ニ於テ開催セラレタ
ル會議、公報御惠贈ヲ蒙リ正ニ落手
致候本大臣ハ此貴重ナル刊行物惠贈
者、好意ト閣下ノ御手数ニ對シ爰ニ
深々謝意ヲ表シ候敬具

明治四十一年六月二日

林 外務大臣

英國特命全權大使閣下

第八

以書翰致啟上候陳者愛蘭農務局ニ於
 テ新ニ發布セラレタル馬匹類ノ輸入
 ニ關スル千九百七年ノ命令本月五日
 付第一五號貴翰ヲ以テ御送付相成正
 ニ致領収候右ハ御來示ノ通り直ニ關
 係官廳へ及轉送置候條此段拜答旁本
 大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表
 シ候敬具

明治四十一年三月九日

外務大臣伯爵林 董

大不列顛特命全權大使

サシ、クロイド、マックスウエル、マクドナルド閣下

第九

以書翰致啟上候陳者貴領印度政府ノ
 派遣ニ係ル陸軍大學校教授并ニ學生
 滿洲ニ於ケル戰場視察方ノ義ニ就キ
 本月十二日付第五號貴翰ヲ以テ御問
 合ノ趣致敬承候右ハ陸軍大臣へ及照
 會置候處異議無之旨同大臣ヨリ回答
 有之候間右様御承知相成度此段貴答
 旁本大臣ハ茲ニ重テ貴下ニ向テ敬意
 ヲ表シ候敬具

明治四十年一月二十一日

英
國
大
使
官

外務大臣子爵林董

大不列顛臨時代理大使

エーチ、シー、ラウザー貴下

第十

以書翰致啟上候陳者客月貴國軍艦「ア
ラクリチ」號廣島灣航行中同船乗組
ノ水兵一名溺死シ屍躰不明ニ相成居
候處過日右發見ノ上今回特ニ吳海軍
墓地へ埋葬ノ事ニ相成候趣海軍省ヨ
リ通知有之候ニ付右様御承知ノ上「ム
リア」中將へ移牒方可然御取計相成度
此段申進旁本大臣ハ茲ニ重テ貴下ニ
向テ敬意ヲ表シ候敬具

明治四十年五月二十日

英國大使官

外務大臣子爵林 董

大不列顛臨時代理大使

エーチ、シー、ラウダー貴下

第十一

以書翰致啟上候陳者曩ニ一千八百九十四年ノ日英條約ニ加盟セル濠洲「ク
 ン」スランド「カ」一千八百九十七年ノ
 議定書第二條ノ規定ニ從ヒ右加盟終
 了ヲ希望スル旨濠洲聯邦政府ヲ經テ
 申出タル趣正式ニ通告セラレタル客
 月三十一日付貴柬第六十五號本月一
 日正ニ受領致候右回答旁本大臣ハ重
 テ茲ニ閣下ニ對シ敬意ヲ表シ候敬具

明治四十一年八月廿四日

英
國
外
務
省
館

外務大臣子爵寺内正毅

大不列顛特命全權大使

カ、クロード、マックスウエル、マクドナルド閣下

第十二

以書翰致啟上候陳者帝國政府ハ本年
六月舉行セララルヘキ貴國

皇帝

皇后兩陛下戴冠式へ參列ノ為メ帝國
軍艦淺間及高砂ノ兩艦ヲ派遣可致候
尚又右兩艦乗組ノ司令官兩艦々長副
艦長并幕僚八名ハ別記ノ通ニ有之候
此段御通知申進候本大臣ハ茲ニ重テ
閣下ニ向ヒ敬意ヲ表シ候敬具

明治三十五年四月七日

英國大使官

外務大臣男爵小村壽太郎

大不列顛特命全權公使

サトウクロード、マックスウエル、マクドナルド閣下

第十三

以書翰致啟上候陳者我至尊ナル君主
 皇帝陛下ハ本日外務大臣伯爵林董ノ
 辭職ヲ聞届ケラレ拙者ヲ臨時兼任外
 務大臣ニ任セラレ候間茲ニ及御通知
 候今後職務上直接ニ閣下ト交際ノ任
 ニ當ルハ拙者ノ欣喜スル所ニ有之拙
 者ハ帝國ト貴國トノ交際ヲシテ益々
 親密ナラシメンコトニ盡力可致候拙
 者ハ茲ニ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候敬
 具

明治四十一年七月十四日

臨時外務大臣子爵寺內正毅

大不列顛特命全權大使

ワシントン、マックスウェル、マクドナルド閣下

第十四

以書翰致啟上候陳者貴國支那艦隊所屬巡洋艦本邦へ寄港ノ件ニ關シ客月十五日附送第二十四號ヲ以テ御申越、趣致敬承候右艦隊中、「アラクリチ」號橫濱築港内碇泊、義ニ就キテハ今回神奈川縣知事ヨリ差支無之旨申越候ニ付右様御承知相成度此段申進旁本大臣ハ茲ニ重テ貴下ニ向テ敬意ヲ表シ候敬具

明治四十年四月二日

外務大臣子爵林 董

大不列顛臨時代理大使

エーチ、シ、ラウザー貴下

第十五

以書翰致啟上候陳者先般本邦へ渡來
 相成候香港知事ウヰリアム、ロビンソ
 ン氏本邦滞在中帝國宮内省及ヒ京都
 大阪兵庫等ノ官廳ヨリ懇篤ナル待遇
 ヲ受ケラレ候ニ付テハ右官廳へ謝意
 申入方閣下へ依頼相成候旨本月六日
 附第二一號貴翰ヲ以テ御來示ノ趣了
 承右ハ夫々其筋へ及傳達置候間右様
 御承知被下度候本大臣ハ茲ニ重テ閣
 下ニ向テ敬意ヲ表シ候敬具

明治二十七年五月十一日

外務大臣陸奥宗光

大不列顛特命全權公使

ヒユ、フレザー閣下

第十六

以書翰致啟上候陳者本月二日付第三
 ニ號貴翰ヲ以テ帝國軍艦松島沈没ニ
 關シ貴國政府ノ同情ヲ帝國政府へ表
 彰可致電訓ニ接セラレ候旨御申越ノ
 趣致敬承候本大臣ハ右ノ好意ニ對シ
 厚ク帝國政府ノ謝意ヲ表シ候間可然
 御取計相成度此段回答旁本大臣ハ茲
 ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候敬具

明治四十一年五月五日

外務大臣伯爵林董

大不列顛特命全權大使

サ、クロード、マックスウエル、マクドナルド閣下

第十七

以書翰致啟上候陳者香港駐在英國陸
軍歩兵中尉バクナル、ワイルド氏夫人
ヨリ其本邦滞在中遺失シタル金製腕
輪ノ發見者ニ對シ金五圓ヲ贈與致度
旨閣下へ申出候趣ヲ以テ本月八日四
拾壹號貴信ヲ以テ御申越ノ次第敬承
早速山梨縣知事へ通牒ニ及ヒ置候處
發見者ニ於テハ折角ノ御厚意ニ付受
納可致旨申出候趣回答有之候間右御
了知ノ上該金額ハ當省へ御送附相成

度本大臣ハ茲ニ閣下ニ向テ重テ敬意
ヲ表シ候敬具

明治三十五年五月廿九日

外務大臣男爵小村壽太郎

大不列顛特命全權公使

サリクロード、マックスウェル、マクドナルド閣下

第十八

以書簡致啟上候陳ハ本年布告第十六
号ヲ以我邦北海道諸島ニ於テ臘虎並
ニ膾腴獸狩獵禁止ノ義布告相成候其
寫ハ其節既ニ御回申置候右ハ是迄ト
雖外國人我管轄海内ニ於テ漁獵ノ義
ハ未曾テ許サ、ル所ニ有之候得共尚
心得違ヒ無之候様該地へ航行スル貴
國船舶へ諭示相成候様閣下ヨリ其筋
へ御通達相成度致企望候右御依頼旁
得貴意候敬具

明治十七年六月廿七日 外務卿井上馨

大不列顛國特命全權公使

ゼ、オノレブル、エフ、アル、プランケット閣下

第十九

以書翰致啟上候陳者客月十九日付第六六號貴翰ヲ以テ貴國ジエームス、ブカナン商會代理人ダブルユー、ブレツト氏ヨリ同商會へ我 帝室御用達被仰付度旨願出候義ニ關シ御來示ノ趣致承知候右ハ早速宮内大臣へ及移牒置候處該件ハ取扱手續上出願者所在地ノ帝國領事若クハ公使ヲ經由ス可キ筈ニ有之候旨回報ニ接シ候ニ付テハ右ノ趣同氏へ可然御通達相成候様

致度此段回答旁本大臣ハ茲ニ重テ閣
下ニ向テ敬意ヲ表シ候敬具

明治三十九年六月五日

外務大臣子爵林 董

大不列顛特命全權大使

サリクロード、マックスウエル、マクドナルド閣下

第二十

以書翰致啟上候陳者海上衝突豫防法
改正ノ件ニ關シ客年九月廿一日附第
八五號貴翰ヲ以テ御申越ノ趣致敬承
候右ハ逋信大臣へ及移牒置候處今回
全大臣ヨリ帝國ニ於テモ御來示ノ通
リ同法ニ改正ヲ加へ本年五月一日ヨ
リ之ヲ施行スルコト、相成タル旨通
知有之候ニ付御承知有之度此段回答
旁本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意
ヲ表シ候敬具

明治三十九年四月廿五日

外務大臣臨時代理文部大臣牧野伸顯

大不列顛特命全權大使

カ、クロード、マックスウエル、マクドナルド閣下

第二十一

以書翰致啟上候陳者去月二十日付第四十五號貴翰ヲ以テ「テリリ、メル」新聞通信員「シドニ、スミス」氏ニ對スル明治三十七八年從軍記章證狀御郵送ノ途中紛失候趣ヲ以テ該證狀、膳本下附方ノ儀御來示ノ旨敬承仕候就テハ右紛失ニ係ル證狀若シ發見ノ場合ニハ之ヲ御還付相成候事御豫諾相成候ハ、更ニ進ンテ右證狀ノ正本再下付方盡力可致候間右御豫約相叶候

哉否ヤ何分ノ御回答相煩度本大臣ハ
茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候敬
具

明治四十一年七月八日

外務大臣伯爵林 董

大不列顛特命全權大使

サー、クロード、マックスウエル、マクドナルド閣下

第二十二

覺書

日本帝國外務大臣ハ英國特命全權公
使閣下ヨリ本年一月二十八日附及五
月六日附覺書ヲ以テ申出ラレタル昨
年中臺灣ニ於ケル叛徒鎮定ノ為メ帝
國陸海軍隊カ打拘及臺南府ヲ攻撃ノ
際該地ニ在留スル英國臣民ガ被ムリ
タル損失ノ件ニ付當該官廳ニ移牒シ
テ審査ヲ遂ケシメタリシガ帝國軍隊
ニ於テ要償者ヨリ申出タルガ如キ所

為アリシコトヲ見ズ然レドモ斯ル場
合ニ於テハ損失ヲ被ムル者之ナキヲ
保セサルヲ以テ英國臣民ニ於テ其産
業ニ多少ノ損失ヲ被ムリタルコトハ
之ナキニ非ザルヘシト思考ス因テ帝
國政府ハ當時ノ情狀ヲ酌察シ各要償
者ニ向テ相當ノ扶助金ヲ付與スルコ
トニ決定ス

明治二十九年六月廿五日

外務省ニ於テ

第二十三

以書簡致啟上候陳者横濱港碇泊貴國
軍艦ゼフア號乘員神奈川縣令ノ許可
ヲ得ス銃器携帶上陸致候事ニ係リ同
縣令ト貴國領事トノ間ニ於テ別紙甲
乙號ノ通往復ニ及候趣今般同縣令ヨ
リ當省へ申出候右ハ過日當省ニ於テ
吉田大輔御面談ノ節ニモ粗申述候通
ニ有之就テハ向後假令葬儀ニ會スル
為メ上陸致候共兵士ノ兵仗ヲ備へ隊
列ヲ為シ上陸候節ハ一應縣令ノ許可

英國大使館

ヲ受候様致度其段可然貴領事へ御通
達相成度神奈川縣令へハ其趣當省ヨ
リ相達可申候此段得貴意候敬具
明治十六年十月四日 外務卿井上 馨

大不列顛國代理公使

セ、オノレ、アル、パウ、ル、ヘン、リ、ル、ホ、エ、ル、ト、レ、ン、チ

貴下

第二十四

以書翰致啟上候陳者北里醫學博士發
明ニ係ル癩病治療ニ用ユル所ノ毒漿
又ハ血精並ニ右發明ニ關スル詳細ナ
ル報道ヲ得ラレ度旨貴國外務大臣閣
下ヨリノ訓令ニ依リ本月八日附第五
十九號貴翰ヲ以テ御來示ノ趣致領承
候右ハ早速内務大臣へ照會致置候處
右癩病治療法ノ義ハ目下傳深病研究
所ニ於テ專ラ研究中ニハ候得共全ク
大成ニ至ラズ隨テ之ニ關スル報告ハ

英國大使館

赤々公ケニシタルモ、無之又之ガ療
用ニ供スル藥液ノ如キモ一般同所外
ニ分配スルノ場合ニ立至兼居候ニ付
目下ノ處乍遺憾御依頼ニ應シ兼候旨
同所長北里博士ヨリ申出候趣同大臣
ヨリ回答有之候ニ付右ノ趣可然貴國
外務大臣閣下へ御通報相成度右回答
旁本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意
ヲ表シ候敬具

明治二十九年九月二十三日

外務大臣伯爵大隈重信

大不列顛特命全權公使

サー、アーネスト、メーソン、サトウ閣下

第二十五

以書翰致啟上候陳者外國人カ臺灣ニ
於ケル樟腦營業ノ義ニ關シテハ全嶋
カ帝國ノ版圖ニ歸シタル以上ハ總テ
現行條約ノ規定ニ依テ律スヘキハ勿
論ノ義ニ候得共右營業ニ從事スル外
國人ハ清國政府ノ下ニ於テ多年内地
營業等ヲ行ヒ來リ其關係淺カラサル
事情モ有之候趣ニ付今俄ニ之ヲ禁止
スルニ於テハ之カ為メ損失ヲ被ムル
者モ可有之ト存候間帝國政府ニ於テ

ハ此等ノ事情ヲ斟酌シ該島樟腦營業
ニ關シテハ此通知ヲ為シタル日ヨリ
向フ一箇年間ヲ猶豫期限ト為シ此期
限内ニ於テ當業者ヲシテ各々其業務
ヲ整理セシムルコト、致度而シテ此
猶豫期限滿了ノ後ハ一切^切現行條約ノ
規定ニ依テ處理可致候間右様御承知
相成度右御通知旁本大臣ハ茲ニ重テ
閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候敬具

明治二十九年十月二十八日

外務大臣伯爵大隈重信

大不列顛特命全權公使

サト、アーネスト、メーソン、サトウ閣下

第二十六

以書翰致啟上候陳者貴國汽船「ウオリ
ユ」ト號神戸碇泊中乗組火夫清國人
「ア」ポ「イ」ト稱スル者重病ニ罹リタル
ヲ以テ同港駐在貴國領事ヨリ兵庫縣
知事ニ向ヒ特別ノ取扱ヲ以テ右患者
ヲ外國人居留地外ニ設置シアル兵庫
萬國病院へ入院治療セシメ度旨協議
ニ及ハレタルニ無登録清國人ハ内務
大臣ノ特許ヲ得タル後ニアラザレバ
上陸難差許旨ヲ以テ同縣知事ハ其請

求ニ應セサリシ處右様不得已場合ニ
於テハ知事ニ於テ特ニ上陸許可候様
致度旨去月二十一日附貴翰ヲ以テ御
來示ノ趣領承致候右ノ趣早速其筋へ
及協議候處病氣療養ノ為メ上陸願出
候清國人有之節ハ其病狀ノ如何ニヨ
リ必要ト認ムル場合ニ限リ假ニ上陸
ヲ許可シ不苦旨已ニ關係地方官へ其
筋ヨリ訓示ニ及ヒ置候趣申越候間右
様御承知相成度右御回答旁本大臣ハ

茲ニ重テ閣下ニ向ヒ敬意ヲ表シ候敬
具

明治二十七年十一月三十日

外務大臣子爵陸奥宗光

大不列顛特命全權公使

ゼ、ヲノレーアル、ル、ポール、トレンチ閣下

第二十七

以書翰致啟上候陳者在臺灣貴國「ラプ
レ」^レカス^レ會社雇支那人手代捕縛、
件ニ付去月二十日附第六號貴翰接閱
其後尚又同月二十七日ニ於テ原外務
次官へ御面談、次第有之候處右ニ付
其筋へ照會、末此度接到セシ回答ニ
依レバ右被告支那人ハ國事犯罪ノ嫌
疑ヲ以テ目下臺灣總督府法院ニ於テ
審理進行中ニ有之又該法院ハ軍事命
令ニ依リ設立セラレタルモノニ係リ

普通裁判所ト其性質ヲ異ニシ從テ審判ノ法則モ同シカラサルヲ以テ被告ニ辯護人ヲ用ユルコトヲ得セシムルノ例ニ非サル趣ニ有之候間右様御承知相成度右回答旁本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候敬具

明治二十九年三月六日

外務大臣臨時代理

文部大臣侯爵西園寺公望

大不列顛特命全權公使

サ、アーネスト、メーソン、サトウ閣下

第二十八

十月二十七日附貴簡致披見候陳ハ貴
公使館地貸借約定書ノ義ニ付御申越
、趣致領承候右約定書ハ最初英文ヲ
以テ御協議ニ及候儀ニ就キ英文ヲ以
テ原本ト致候様御申越ニ有之候得共
右約定書案ヲ英文ニテ御協議ニ及候
ハ貴館ト當省ト便宜ニ依リ候儀ニ有
之右等地方ニ屬シ候約定ハ東京府ニ
於テハ可相成ハ日本文ヲ以テ原本ト
致度冀望致候乍去右ニテハ工部長官

ノ御調印ニ差支候儀モ有之候得ハ和
英西文ヨ均シク原本ト相成候様致度
候尤右和英文共意味ニ相違無之ハ拙
者ニ於テモ閣下ト御同見ニ有之候將
又借地料千八百七十二年五月五日ヨ
リ千八百八十四年六月三十日迄ノ分
并千八百八十四年七月一日ヨリ千八
百八十五年六月三十日迄一々年分ノ
計算共東京府ヨリ別帑ノ通申出候間
右ハ御都合次第御拵入相成度此段回

答得貴意候敬具

外務卿代理

明治十七年十一月廿七日

外務大輔吉田清成

大不列顛國特命全權公使

ゼ、オノレーブル、エフ、アル、プランケット閣下

第二十九

以書翰致啟上候陳者領事裁判制度存
續ノ間帝國政府ハ國法上ノ救濟手段
未タ盡キサル問題ヲ外交手續ニ依リ
處理シタリシコト不尠候處當時帝國
政府ハ此ノ如ク國際上ノ常規ニ反ス
ル破格ノ慣行ハ其ノ淵源タル該裁判
制度ノ廢止ト共ニ消滅スヘキコトヲ
豫期シタリシ次第ニ有之候
然ル處此希望ハ改正條約實施以來既
ニ六箇年ヲ經過シタル今日ニ於テ未

邦國大使館
ク十分之ヲ達スルニ至ラズ候ニ付帝
國政府ハ右破格ノ慣行ヲ廢シ國際上
ノ通則ニ遵ハムカ為メ茲ニ公式ノ通
告文ヲ以テ之ヲ宣明スルノ必要ナル
コトヲ認ムルニ立到申候
是故ニ日本國皇帝陛下ノ外務大臣々
ル下名ハ今後國法上救濟ノ途アル事
件ハ利害關係人ニ於テ右救濟手段ヲ
盡シタル上尚外交上ノ交渉ヲ開クニ
足ルヘキ相當ノ理由ヲ具シタル陳辯

書ヲ提出セラルルニ非スンハ帝國政
府ニ於テハ之ヲ外交上ノ問題ト為ス
ノ機熟シタルモノト認ムルコト能ハ
サル旨ヲ通告スルノ光榮ヲ有シ候
下名ハ閣下ニ於テ本通告文ヲ貴國政
府ニ御傳致相成候様希望致候下名ハ
茲ニ閣下ニ向ヒ重テ敬意ヲ表シ候敬
具

明治二十九年四月八日

外務大臣侯爵西園寺公望

大不列顛特命全權大使

サ、クロード、マックスウエル、マクドナルド閣下

第三十

以書翰致啟上候陳者濠洲聯邦ノ各洲
 政府ヨリ日英兩國間ニ千九百年四月
 二十六日東京ニ於テ調印シ同年十月
 二十五日批准交換ヲ了シタル死亡者
 ノ財産保護ニ關スル條約ニ加入ノ希
 望ヲ在倫敦殖民省ヲ經テ申出候趣ヲ
 以テ閣下ハ該條約第二條ニ遵ヒ其旨
 帝國政府ニ御通知相成候様貴國皇帝
 陛下ノ外務大臣ヨリ訓令ニ接セラレ
 タル旨并ニ右ノ通知カ甚夕遅延シテ

該條約規定ノ期限内ニ為シ得ラレサ
リシハ右濠洲政府ノ通牒ハ該條約規
定ノ期限内ニ為サレタルモ閣下ヘノ
訓令カ延着シタルニ基因セルモナ
ルニ付其事情ヲ諒シ目下己ニ該期限
經過後ナルニ拘ラス濠洲聯邦ノ該條
約ニ加入ノ儀ヲ承諾致候様帝國政府
ニ請求方ニ付更ニ貴國政府ノ訓令ニ
接セラレタル旨本年五月八日付第三
十三號貴翰ヲ以テ御申越ノ趣敬承致

候

目下日濠間ノ交通貿易漸次増進ノ際
益々西國間ノ關係ヲ密接ナラシムル
ハ帝國政府ノ固ヨリ希望スル處ニ有
之候ニ付帝國政府ハ右貴國政府ノ請
求ニ應シテ濠洲聯邦カ日英兩國間死
亡者ノ財産保護ニ關スル條約ニ加入
ノ儀ヲ承諾致候旨茲ニ閣下ニ通報ス
ルハ本大臣ノ深ク欣榮トスル所ニ有
之候

右回答旁本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向
テ敬意ヲ表シ候敬具

明治三十六年七月十日

外務大臣男爵小村 壽太郎

大不列顛特命全權公使

サトクロード、マックスウエル、マクドナルド閣下

16

M.C.V.

W 61533



